

夏休みは入試の天王山

一部活動が終了したら一日も早く受験生になりきろう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

1 学期末テストの成果はどうでしたか。6月初旬から1ヶ月かけて準備をした方は、限りなく100点に近い点数が多く科目でとれ、試験直前になってから「ドロでなわをなうような」「ドロナワ」勉強しかなかった方は、満足な点数がとれなかったことと思います。努力をした人がむくわれる、これが学校での勉強ですので、仕方のないことだと考えます。

12月中旬に迫った高校入試も全く同様で、努力をした人がむくわれ、怠けた人がむくわれないこととなります。そこで、今回は、12月中旬の高校入試で希望校に合格を果たすために、どのような努力をすべきかを考えます。

2. 一日も早く受験生になり切ろう

(1) 私立学業特待試験が12月中旬に行われ、毎年大半の中3生が受験いたしますので、開倫塾の塾生諸君にとって入試は12月中旬と考えるべきかと思えます。つまり入試まであと5ヶ月、150日しかないことを、中3生は明確に認識すべきと考えます。

高校入試は3月中旬だから、ゆっくりやればいいやと考えていると私立学業特待入試で希望高校に合格できず、その結果、1月中旬の私立単願入試を受験するよう学校から指導を受ける場合が多いようです。すでに、各私立高では12月の学業特待と1月中旬の単願入試で入学者の大半を確保しているため、1月下旬の私立併願入試は困難を極めほんの少ししか合格者を出さないからです。何が何でも12月中旬の私立高校の学業特待試験で希望校の合格を果たさねばなりません。

(2) そのためには、一日も早く受験生になり切ることが大切です。

地区大会が終了したら、県大会に行く方は別として、翌日から「私は受験生である」と自分自身に言い聞かせて、受験生になり切ることです。

(3) 「受験生」とは何か。生活の大半を受験勉強に費やす人を言います。朝起きて、夜寝るまで、一日中勉強し続ける人を「受験生」といいます。

そんな大変なことはできっこないやと、はじめからあきらめることはありません。工夫次第で、誰でも「受験生」になり切れます。また、「受験勉強」はおもしろくないなどとはじめから決めてかかってはいけません。高校入試に出るような内容は中学卒業生つまり義務教育を終了した人がだれでも最低身につけなければならない「基本」ばかりなので、勉強すればするほどおもしろ

く、また、高校に入学した後だけでなく世の中に出てためにもなります。

(4)1 科目でもよい点がとれるようになると内容の全てがよくわかるようになり、その結果勉強が楽しくなり、もっともっとその科目を勉強したくなります。勉強すればするほど頭がさえわたり、記憶する力や理解する力もぐんぐんついてきます。

(5)小学校・中学校で足りなかった知識を高校入試の勉強を通して身につけるといっても受験勉強は意味があります。是非、積極的に取り組んで下さい。

3. おわりに

受験勉強に頭のよい悪いは一切関係がありません。一日も早く「受験生」になり切り、「体力と気力」を充実させて勉強をしたかしないかで勝負は決まります。

開倫塾では、全職員が全力を傾けて受験生の皆さんがすべて希望校に合格できるよう指導いたします。

つらいのは皆同じです。歯をくいしばって、がんばっていきましょう。